

令和3年11月4日

令和3年度

施設関係者評価報告書

社会福祉法人不易創造館認定こども園ポートタウンこども園は、教育・保育目標や計画等をはじめとする園運営について自己点検・自己評価を実施し、「令和3年度施設関係者評価報告書」を作成し、当園のホームページに公表いたしました。

11月12日（金）に幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者の協力を得て、幼児教育関係者を招き公開保育を実施しました。

また「施設関係者評価委員会」を設置し、当園に関連する保育・教育関係者の皆様より当園の幼児教育及び運営に対し、ご意見ご指導を賜りました。頂戴いたしましたご意見につきましては「令和3年度施設関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後は頂きましたご意見等をさらなる教育・保育に生かし、さらに認定こども園ポートタウンこども園が向上していけるよう職員一同努力いたします。関係者の皆様には今後とも尚一層のご支援、ご指導を賜ります様よろしく願いいたします。

社会福祉法人不易創造館

認定こども園

ポートタウンこども園

園長 阪上 久里子

社会福祉法人 不易創造館 認定こども園ポートタウンこども園

令和3年度 施設関係者評価委員名簿

学校法人森岡学園 住の江幼稚園

園長 市田 る里

学校法人森岡学園 すみのえひよこ保育園

園長 北川 寿子

社会福祉法人 喜和保育事業会 きのみ保育園

園長 坂下 和

キッズいわき・ぱふ

代表 岩城 敏之

以上4名

令和3年度 自己評価・施設関係者評価シート

社会福祉法人不易創造館

認定こども園ポートタウンこども園

1. 園の教育目標

本園は、「たくましく生きる力を育む」を教育理念に掲げ、

- ・健康で体力のある子ども。
- ・仲良くできる子ども。
- ・自然に親しみ大切にできる子ども。
- ・自分のことができる子ども。
- ・感性と創造性の豊かな子ども。

の5点を教育目標として挙げており、

以下を教育目標としております・

「生き生きとした子どもをめざして子どもの主体的な活動としてのあそびを十分に確保し、あそびを通して、たくましく生きる力を育むことを目指している。」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- (1) 活動体験を十分に積み重ねる
- (2) 養護による自己発揮を考慮し、乳幼児期にふさわしい生活の展開
- (3) 遊びを通じた指導を中心として5領域のねらいを達成
- (4) 園児一人一人の発達の課題に即した指導→保育教諭の計画的な環境構成

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組内容	自己評価
教育保育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定こども園の状況を踏まえた教育目標 ・ 重点目標の設定 ・ 年間の指導計画や週案の作成 ・ 教員間の協力的な指導状況 ・ 各クラスの運営の成果と課題 	<p>本園の保育目標を全職員で共有し、年間の指導計画・週案の作成に力を入れた。週案検討の中で主任等にアドバイスをもらいより良い保育を行うことを目指し、さらに週の終わりに振り返りを行い次週につなげた。</p>
研修 (資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の質の向上を図る ・ 園内研修 ・ 園外研修 	<p>園外研修に参加し、保育の質を高める努力を行った。</p> <p>研修報告書の作成や報告会により、研修にいけない教員にも内容の周知を図ったりリモートによる研修にも積極的に参加した外部講師を招き全職員で研修を受けた。</p>
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設整備の安全、維持管理のための整備 ・ 遊具・用具・図書の整備 ・ 季節の草花を植える 	<p>毎朝、早番が園庭や園の周りを確認し遊具等危ないところがないか点検した。春はチューリップ夏は朝顔のグリーンカーテンと季節の花々を感じられるようにした。</p>
食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食物の栽培 ・ 植物の成長に目を向ける ・ 栄養士から食育指導を受ける ・ 野菜の皮むき・筋とり。 	<p>園の畑に、トマト・ナス・ピーマン・枝豆・大根を栽培した。栄養士から食育指導をうけながら、給食に使う野菜の皮むきや筋取り等自分たちも給食調理に参加し、給食に対し関心を高めた給食室の脇の壁に毎月食材について伝えたいことなど掲示し、園児の興味を高めた。</p>

評価項目	取組内容	自己評価
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の理解を深める ・ 該当児に対しての個別の配慮 ・ 医療・福祉などの関係機関との連携 ・ 家庭との連携 ・ 療育施設への見学 	<p>特別支援関係の研修に出席し、特別支援における質の向上を図った。気になる園児に対しては臨床心理士と密に連絡をとり、対応を協議した。発達に対して不安はあるが行動に移せない保護者には臨床心理士を紹介した。職員が療育施設の担当と送迎時にはなし、どのような支援をするのか把握した。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て相談の実施 ・ 未就園児親子登園の実施 ・ 子育て情報の提供 	<p>未就園児の親子を対象に「陽だまり」を継続実施した。陽だまりにおいて保護者からの子育ての悩みなど相談に応じた。子育て情報の提供、情報の配信をした。</p>
預かり保育	該当なし	
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルス対応 ・ 家庭や医療機関等の連携 ・ 日常の健康観察、疾病予防 ・ 健康診断 ・ 事故等の緊急事態発生時の対応 ・ 職員の健康管理 	<p>コロナウイルス感染予防の為、園児・職員の日々の検温、手洗い・うがいの徹底、換気の徹底、園舎、遊具等の消毒の徹底に気を付けた。内科・歯科の検診を実施した。事故の大小にかかわらず、職員が緊急処置をとり、保護者へ連絡、医者へ連れていく等の対応をし、ヒヤリハットや事故報告等職員でよく話し合い、再発防止に努めた。職員の健康診断の継続実施及びインフルエンザ予防接種の推奨・補助。</p>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画等の作成、実施 ・ 危機管理マニュアル等の作成、活用 ・ 安全点検、教職員の安全対応能力の向上 	<p>あらゆる場面を想定して、避難・防犯訓練の実施。園外の南港はなのまち公園まで実際に避難した。機管理マニュアルを職員で読み合わせ、避難について話し合った。発作やアナフィラキシーショックをおこす恐れのある園児について、職員に対して緊急時の対処方法の確認。エピペンの使い方の確認しました。</p>

評価項目	取組内容	自己評価
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・行事における保護者参加 ・行事における反省や改善 ・園だより、クラスだよりの配信 ・登園・降園時 	今年度は新型コロナウイルス感染予防の為各行事は縮小、及び観覧者数の制限をして実施した。月だより、クラスだよりの発行において、保育状況、園の考えを伝え、保護者と情報共有を図った。登園、降園時、保護者と連絡をし、連携を密にした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止となりましたが、開催方法の変更（縮小・入場制限）を行い、昨年度よりは多くの行事を開催にすることができました。</p> <p>感染予防の為、細心の注意を払い、園内外の消毒の徹底、換気の徹底を行いつつの日々の保育であったが、先生方の努力もあり保育の質を落とさずに行うことができました。昨年受講数が少なかった研修もコロナ禍ではあるがリモート研修で行うことでさらに知識を深めることができました。</p>

※3. 4. の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子育て支援の充実	感染対策を行い、予約制少人数開催をしている。
保護者との連携	配信や送迎時に保護者とコミュにケーションをとる。

6. 施設関係者評価委員会の意見

特記なし
